

4月25日午後、団体交渉を行います。
主な議題は、2013年度春闘要求、

原研労組の単独団交と科労協共同団交がそれぞれ行われます。

機構は、組合の要求、職員の要求に誠実に答えなければなりません。

給与削減の特例措置：

昨年7月から、平均7.8%もの大幅な給与削減が一方向的に導入されたままです。早急にやめなければなりません。

退職金削減：

先の団体交渉で、機構は大幅かつ、急激な削減を提案しました。退職金は、その長年の働きの結果としてあるもの。ほぼ約束されていたようなものを、払う段になって急に減らすことは、あってはならないことです。労組は、基本的に削減に反対しています。機構は、削減を提案するなら、これまでの勤務で積み上げた分は保障するとか、定年を延長するとか、とにかく何らかの対案を示すべきです。公務員に準ずるとする説明だけでは納得できません。

超過勤務の扱い：

課長とか課長代理に職位を上げて、あとは超勤ただ働きのようにする制度は早急に改めるべきです。地震後の施設の補修、補強や、安全の見直しそのほかの対応がまだ終わったわけではありません。加えて福島関連勤務で、大変な負担がかけられている職員も少なくありません。忙しいのはある程度やむを得ないとしても、働いた分はきちんと賃金を払うべきです。ちょっと管理職のような職位に就かせて、ごまかすのはだめです。

職員住宅(宿舍)：

政府の削減政策に対して多くの職員が不安に思っています。また、住宅の削減は、機構の施設を安全に維持管理することにも影響するものです。納得のいく方針を示さなければなりません。

などなど

原子力機構の職員に、創造的なよい仕事をさせたいなら、よい職場環境としっかりした処遇を与えるべきではないでしょうか。その努力なしに、「国難」だの「未曾有の災害」などの言葉を躍らせても職員の士気は向上しません。

< 新入職員の皆さんが職場に配属されました >

原研労組に加入するよう勧めてください。

新入職員の皆さんには、4月2日、昼休みの時間をいただいて、

原研労組への加入をお誘いしました。資料もお渡ししました。

職場の仲間、先輩の皆さんからもお誘いしてください。

また、執行委員の説明が必要な場合は、組合事務所へ連絡ください。

年配の職員の方も、原研労組への加入を歓迎いたします。

genkenrouso@muse.ocn.ne.jp へ連絡いただければ、資料などをお送りします。

原研労組は、全般的な労働条件はもとより、個々人の問題にも取り組みます。世間では個人の問題を扱わないという労働組合もあります。原研労組は違います。必要があれば、団体交渉でも取り上げます。何かあった時の保険にもなります。

労使間で解決が難しそうな問題でも、相談してください。

5月1日(水)、茨城中央メーデー：

場所：水戸市、千波公園 はなみずき広場

時 10:00 開会 (受付開始 9:30)

11:15 デモ行進出発

水戸市民会館付近まで行進

デモ行進の後、交流会 模擬店があります。

参加する組合員には、労組から帽子と若干の補助が出ます。

給与の大幅削減特例措置を直ちにやめろ!!!

投稿：*****

平成 25 年度原子力機構新入職員歓迎式 理事長訓示について

D生

標記、歓迎式（4月1日）において、理事長訓示があったらしい。イントラにその理事長が発言した書面が掲載されていたので、目をとおしてみると驚く言葉が載っていました。それは、以下の部分です。

「私が、ここで強調したいことは、地震や津波の専門家が誰も想定していなかった事象が発生し、それが炉心溶融という、起きてはならない原子力事故を招来したという事実に我々は正面から向き合わなければならないという点です。」また「しかしながら、今回の福島第一事故は、専門家の知識や知見からは想像できないほどの巨大津波に原因するものであり・・・」とあります。

「専門家が誰も想定していなかった事象」とか「専門家の知識や知見からは想像できないほどの巨大津波に原因」とか、まさに驚くべき発言です。理事長である鈴木篤之氏とは、どうゆう人物なのか、疑いをいだかせる発言に強い衝撃を覚えるのは、私だけでしょうか。「専門家がだれも想像できない」ものだったら、何故、東海第二原発は、震災二日前にできた防潮堤を作ったのか。さらに、数年以上にわたり国会質疑などにより地震や津波などに係る指摘をされていたにもかかわらず、対応を怠ってきたのは、国や東電などの安全神話にしがみつ়く方々であったのは明白な事実です。加えて、東電は事故時の運転方法を知らない有様が明らかになり、お粗末そのものです。それらのことについて、理事長も過去に深くかかわっていたはず。さらに、付け足せば理事長のいう専門家とは、御用学者と言われている方々のことなのでしょう。そういう方々だけを「専門家」とするなら、真面目に指摘をされてきた専門家や国会議員などに対して、あまりに失礼で無責任な発言と言わざるを得ないでしょう。

その他、「設計」とか、「福島第一の1号機から4号機だけが・・・」とか触れていますが、少し真面目に学習すれば何故かの回答は観えてくるもので、国民を馬鹿にしている発言と言わざるを得ません。原子力機構の歓迎式におけるトップのあいさつとして、ふさわしいものといえるか大いに疑問です。

私は、正直に危ないものは危ないと指摘する仲間に同意してきたので、仕事も給料も不当に差別されてきました。でも、原発事故が起きた今、不当に差別されても人間として間違っていなかったと確信しております。そのような私からみると、理事長の発言は、事実を捻じ曲げて、自分には罪はないと弁解しているようで、とても容認できるものではありません。私は、このようなことを書きたくないです。しかし、書かずにいられません。真摯な反省を求めます。

5月3日(金)憲法記念日 憲法フェスティバル

場所： 水戸市、千波公園 はなみずき広場

(雨天決行 参加費無料)

毎年、日本国憲法の意義を再確認する活動が行われています。

(2011年は震災で中止されました)

☆ テント交流企画 10:30~12:00

☆ 中央ステージ

- ステージ演奏など 12:10 から 13:10
(水戸工業高校ジャズバンド、水戸藩 YOSAKOI 連)

- 記念講演 13:30~

前泊 博盛氏 (中縄国際大学教授・元琉球新報論説委員長)

「基地・オスプレイはいらない！」

—— 伝えたい 沖縄と日米安保の真実 ——

☆ 広場企画 (15:30 ごろまで 1日楽しめます。)

子供広場、 沖縄物産展、 各団体の模擬店、 ママカフェなど
